令和元年度第１回伊予市総合教育会議　議事日程

１　日　時　令和元年１０月１６日（水）午後２時３０分から

２　会　場　伊予市役所４階　第１会議室

３　出席委員

伊予市長	武　智　邦　典
教育長	渡　邉　博　隆
教育長職務代理者	矢　野　ひとみ
教育委員	鷹　尾　秀　隆
教育委員	髙　橋　久美子
教育委員	水　口　良　江

４　会議に出席した事務局職員

教育監理監	武　智　茂　記
事務局長	佐々木　正　孝
学校教育課指導主幹	福　原　浩　一
学校教育課指導主事	髙　石　達　也
学校教育課課長補佐	田　中　富　美
学校教育課 　学校給食センター所長	川　本　英　人
社会教育課長	山　岡　慎　司
社会教育課課長補佐	北　岡　康　平
社会教育課課長補佐	堀　内　和　美
社会教育課課長補佐	宇　都　光　英

５　協議事項

⑴　統合型校務支援システムの導入について

⑵　中学生英検３級受験（補助金）について

⑶　令和２年度伊予市文化交流センターアクションプランの推進について

⑷　その他

午後２時３０分　開会

○佐々木事務局長　開会

最初に武智市長から挨拶を申し上げます。

○武智市長　皆さん、改めましてこんにちは。

大変お忙しい中、時間を割いていただいて引き続きの会、本当にお疲れさまです。教育委員の皆様方、教育長を始め、学校教育と社会教育行政等々に本当に御尽力を賜っておりますことを心よりお礼を申し上げます。

今、総合計画で「まち・ひと・ともに育ち輝く伊予市」と将来像を掲げ、３万人が住み続けることのできる環境づくりを目指していますが、皆さん御案内のとおり、あと６年後、令和７年には団塊の世代がピークを迎え、５人に１人が75歳以上というような伊予市の人口構成になる中、子供たちの未来を考える必要があると思っています。要は５人に１人が75歳以上ということであれば、75歳以上の方々がある意味伊予市の牽引もしていくこともできるだろうし、また子供たちが、そのじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、張り切ることもできるのではないかと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

今日の総合教育会議の次第にもありますように、総合型校務支援システムの導入についてと中学生英検３級受験（補助金）について及び令和２年度伊予市文化交流センターアクションプランの推進についての３議題を取り扱うこととさせていただきました。こうして協議ができますのも非常にありがたいことで市長部局と教育委員会が共通の認識を持ちながら、子供たちの未来のために頑張っていきたいと存じておりますので、今後とも教育委員の皆様方にはさらなる御高配または御指導をお願い申し上げまして、御挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○佐々木事務局長　続きまして、協議事項に入りますが、伊予市総合教育会議設置要綱第４条に市長が議長となるとありますので、以下の協議につきましては武智市長の進行でよろしくお願いします。

○武智市長　はい。それではまず、本日の総合教育会議開催に当たりまして、伊予市総合教育会議傍聴要領に基づき、傍聴人の受け付けをしましたが、申請がありませんので、御報告をいたします。

それでは、早速でございますが、協議事項に入らせていただきます。

まず、(1)統合型校務支援システムの導入について、事務局からの説明をお願いします。

はい、佐々木局長。

○佐々木事務局長　それでは、協議事項の１点目、統合型校務支援システムの導入について御説明申し上げます。

資料の１ページをお開きください。

まず、文部科学省では、2018年８月に教師の長時間労働を解消するための対策手段として

「統合型校務支援システムの導入のための手引き」を公表しました。この手引きの関連資料中に「業務一覧」というのがあります。大分類は「児童生徒の指導にかかわる業務」、「学校の運営にかかわる業務」、「外部対応」の３つであり、その下に中分類が38、小分類が104項目あります。「これは先生の仕事」という当たり前のものから「そんなことまで」というものまであり、例えば「教員は、地域行事等に参加する」「教員は、地域住民等からの要望・苦情を受け付ける（対面・電話・メール・書面）」などがあり、忙しくなるのは当然のことと考えます。

統合型校務支援システムとは、教務系・保健系・学籍系・学校事務系など統合した機能を有しているシステムを指し、成績処理等だけではなく、グループウエアの活用による情報共有も含め、広く校務と呼ばれる業務全般を実施するために必要となる機能を実装したシステムのことです。これにつきましては、本日別添でお配りしておりますイメージ図を御参照ください。

文部科学省が教員の働き方改革の一環として本システムの導入を推進していますが、導入について、全国的に進んでいないのが現状です。文部科学省の調査によりますと、統合型校務支援システムの整備率は、若干古いですけど、2017年３月１日時点で学校全体の48.7％にとどまっており、依然として半数以上の学校で、統合型校務支援システムの導入が進んでいないのが現状です。このシステムを導入していない理由としては、「導入したいが、予算を確保できない」が46.2％を占めています。

また、この統合型校務支援システムを導入いた効果は、手引きの「はじめに」では、2016年度の教員勤務実態調査で教員の１週間当たりの学内総勤務時間、これには持ち帰りは含みませんが、小学校で57時間25分、中学校で63時間18分となっており、教員の業務負担の軽減は喫緊の課題だとしています。１週間40時間労働を基準に算定すると、小学校でも１カ月で約70時間、中学校では90時間を超えて、過労死基準の80時間を突破します。もちろん、持ち帰りや居残りを正確に算出すれば小学校でも80時間を超えることになると思われます。

手引きでは、「学校における働き方改革により、教員が心身の健康を損なうことのないよう業務の質的転換を図り、限られた時間の中で、児童生徒に接する時間を十分に確保し児童生徒にとって真に必要な総合的な指導を持続的に行うことのできる状況を作り出すことが求められる」として、本システムの導入促進を薦めています。

導入効果について手引きでは、「定量的効果」業務時間の削減等、数値化できる効果と「定性的効果」教育の質の向上等、数値化できない効果があるとしています。

定量的効果では、統合型校務支援システムの導入している一部の自治体で、導入後の業務削減時間を測定し、その結果を公表しています。若干古いデータですが、大阪市では2011年に実施した学校実態調査では、校務に関して手書き処理であるにもかかわらず、膨大な調査事務や、それに伴う情報管理が要求されることが明らかになったということです。成績処理や出欠

管理など手書きであるが故に転記ミスのチェック・書き直し・検算などの余計な負荷がかかり、限られた日程から時間内に処理しきれずに成績処理等の業務を自宅へ持ち帰らざるを得ない場合があり、結果的に情報漏えい等のリスク管理も生じます。

次に、定性的効果としては、「児童生徒に関連する効果」、「教職員に関連する効果」、「外部（保護者等）に関連する効果」の３点を挙げています。「児童生徒に関連する効果」は、「学習指導の質の向上」と「生活指導の質の向上」を挙げています。「教職員に関連する効果」は、「コミュニケーションの向上」、「業務の質の向上」、「教員の異動への対応」、「セキュリティの向上」が考えられます。「外部に関連する効果」は、「通知表等への記載内容の充実」と「外部対応の充実」につながります。

県内市町の統合型校務支援システムの整備状況を８ページに掲載しています。令和元年６月調査時点で統合型校務支援システムについて、県内20市町中13市町が導入済みです。なお、整備予定の西予市は、聞き取り調査により現段階ではシステム選定済みで導入に前向きに動いています。未定は４市町で、本市と上島町、松前町、砥部町で、これを見る限り本市は、この統合型校務支援システムの導入あるいはＩＣＴの導入等につきまして、県内の中でも遅れていると考えられます。

先ほど申し上げた効果等を勘案し本市においても、この統合型校務支援システムの導入を検討というか、前向きに進める時期ではないかと思います。まず、この校務支援システムを導入するに当たり、まず最大の問題の費用について、業者から見積もりを徴した結果、年間で約915万円程度、５年間で約4,574万円程度の費用が必要です。このあたりが、ネックになるところですが、先ほども申しました教員の方々の質的改善あるいは働き方改革等々を勘案して、このシステムの導入にそろそろ前向きに検討する時期が来ているかと考えます。また、先般開催された校長会で、校長先生からこのシステムの導入について前向きに検討して下さい。との要望があったことを補足させていただきます。

以上です。よろしくお願いします。

○武智市長　ただいま事務局長のほうから総合型校務支援システムの概要についての説明がございました。

何か御質疑、御質問等はございませんでしょうか。

○矢野ひとみ委員　はい。

○武智市長　はい、矢野ひとみ委員。

○矢野ひとみ委員　費用について、何か2018年の文科省の総合型校務支援システムを導入を促進する通知が出たときに地方交付税か、何かお金が国から、出るようなことを聞いたのですが、教えてください。

○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　はい、佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　費用面は、地方交付税の算定対象外と認識していましたが、改めて財政部局にも確認したいと思います。
○矢野ひとみ委員　了解しました。
○武智市長　今令和元年ですから、平成31年で、例えば、出欠管理などを手書きで書くので間違い、転記ミス等もある。これが平成５年ぐらいなら手書きで管理するのも分かります。しかし、今の時代なら、エクセルをちょっと使える先生がいたら出勤簿くらいなら、簡単に作れるのではないか。しかし、それが手書きじゃないとだめよっていうような一つの縛りがあって、改ざんにつながるから手書きじゃないとだめとの縛りがある。と聞き覚えがあります。
　平成５年ぐらいならワープロ使うのも嫌で、パソコンのマウスって何なのという時代でしたが、今の時代、何でも手書きで管理することはいかがなものでしょうか。
○渡邉博隆教育長　この統合型校務支援システムの導入については、３年前にもこの総合教育会議の議題に上げました。その際、現時点では、費用対効果が不明瞭なところもあるため、今後検討を要するとの結論に落ちついたと思います。その会議で御質問等があった中で、市長が先ほど言われた内容の御質問に関連する内容があったと思いますが、その際には、手書きでないといけない訳ではなく、エクセルとかワードとかでも可能ですが、システムは導入されていないところで、従来どおり手書きで管理しているとの回答だったかと思っています。
○水口良江委員　はい。
○武智市長　水口委員さん。
○水口良江委員　私の勘違いかもわからないですが、学校訪問で、２年ぐらい前からこのシステムのことはすごく学校の先生方の大きな要望と聞いています。それで、今のいわゆる学校の成績のシステムに関しては、私が伺った記憶では、多分ＩＣＴ機器の知識を持っている先生が作ったものを皆さんが使っている。自分たちの力では、ここらまでしかできないので、このシステムを導入することが現場の大きな声でした。私もＩＣＴ機器に精通していませんので詳しい言葉では説明できませんが、今現実に知識がある先生が皆さんに送って共有して使っているのが現状と思います。だから、成績表などは、手書きではなく、もう打っているかと思います。ただ、成績表だけでなく、校務のことであったり、成長のことであったり、いろんなことがシステムに総合的に含まれて、その上、メンテナンスとかいわゆる秘密を守るためにも、この統合システムじゃないと難しいと私が学校訪問したときに先生から説明を受けたと思います。
○武智市長　おっしゃるとおりと思います。基本的にメーカーが、このアプリをつくるのに何億円という金を使います。成績などの教務、保健、学籍、学校事務などを校務として枠をリンクというか関連させて、それにセキュリティーチェックかけて外に漏れないようにする。そのためには、こういうシステムを入れんと絶対だめなんです。
○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　補足いたしますが、先ほど水口委員がおっしゃられた、この統合型校務支援システムでは、さまざまなデータを各機能帳票間で共有できる仕組みがあります。あくまでも名称で統合型ですが、先ほど申しましたシステムのイメージ図のとおり、成績管理ですとか、時間割りですとか、校務支援システムの基本情報ですとか、このような事務は、単独での先生の御努力によって作っていました。この統合型校務支援システムでは、この名簿管理機能で入力された名簿情報が出席簿、出欠管理に引き継がれる。成績処理や通知表、指導要録をはじめ他の機能や帳票作成時に入力したデータが引き継がれる。１カ所入力すれば、他の成績管理、時間割りとか、全部に引き継がれていく機能を有しております。よって、今まで先生が一つ一つ入力していたものが省略化される。省かれた時間を子供たちのための時間に使つことができるのが長所があると考えています。

○武智市長　わかりました。

　ほかにございませんか。

○矢野ひとみ委員　はい。

○武智市長　はい、矢野ひとみ委員。

○矢野ひとみ委員　結論的には、「是非早急に導入してもらいたい」が私の気持ちなんですが、「今回、特に急いで」との言葉を入れたいと思います。

　理由は、来年度から学習指導要録が新しく変わります。教科書も変わる。指導要録が変わるので、通信簿もはじめ全ての書類が変わります。現在のところ伊予市の先生方は、ある校長先生がつくったものをもとに指導要録、通信簿、全部パソコンで入力しています。しかし、来年度からは、指導要録の改訂によって、その書式が全部変わるので、またそれをつくり直さなければなりません。そういう面からいっても、できるものなら早く導入していただきたい。それも具体的に言ったら１月には導入して、いろいろなことを準備して、来年度の４月からすぐ使えるようにすると先生は、新しいものを全部つくり直すという非常に手間が省ける気がします。当然、アプリケーションとかも決定しなければなりませんが、他市町が導入しているシステムの利便性を調べたり、校長会やパソコン関係にたけている先生方から意見を聞いたり、システムの選定については、現場の先生の意見も聞いてもらえたらありがたいです。

○武智市長　まずもって、矢野委員の御意見を受けて質問をしますが、愛媛県下11市９町の教育委員会の中で、これを導入しているのは、何市町あるのか教えて下さい。

　また、矢野委員の今の意見を受け、予算計上の時期は、来年の３月当初予算に上げるのか、それとも１２月補正予算として上げるのか、教育委員会の考え方をお聞きしたいと思います。

○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　はい、佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　まず、御質問の１点目、県下20市町における導入状況について、資料３ページをご覧下さい。

整備済みでは13市町。それから整備予定の西予市は、本年度システム選定済みで、県下20市町中14市町が導入をしています。検討中が伊方町と久万高原町。未定は、本市も含めて上島町、松前町、砥部町、この４市町が現在未定です。よって、大方の市町が、この統合型校務支援システムの整備を行っています。

２点目の予算計上時期について、教育委員会としては、先ほど矢野委員が補正予算での対応との御要望でしたが、現在、当初予算での計上を考えています。当初予算で計上し、システム等々を選定して、若干４月以降にはずれ込みますが、来年度中には導入する方向性で考えています。

○武智市長　現段階、現時点における教育委員会の考え方は、そういうことでありますが、20市町中14市町が導入して、先生の仕事の軽減を図っている。逆に今の説明から言ったら、子供たちと触れ合う時間もたくさんとってる14市町に比べて伊予市は少ない。伊予市、伊予郡が導入していないからという部分もあろうと思いますが、そういうことを加味したとしても12月の補正に５年間で約4,574万円程度の継続費を組むとか、それとも単年度の915万だけでも計上したら、来年早々からいろんな準備ができるのではないだろうか。それなら、４月に先生の異動があるが、その時点で伊予市においてはそのシステムが入っていたら、スムーズに校務ができるのではないか。多分３月当初で上げたら、このシステムが使えるのは５月、６月、７月の話になります。だから、そこは考えるべきじゃないのかなと私は思います。議決事項は最終的には議会が決めること、予算を上げるのは担当原課が決めることではありますが、これらを含めてどうでしょうか。

○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　はい、佐々木局長。

○佐々木事務局長　ただいま市長さんのありがたいお言葉のほうを頂戴したわけですが、次年度予算の編成作業を既に入っております。また12月補正のヒアリング等も既に終了した時期ですので、先ほど申しましたように、教育委員会としては、次年度に当初予算として計上し、早々にでもシステム選定作業を進めて、次年度の早い段階で稼働できる体制を整えたいと考えます。

○武智市長　極端に言ったら災害が起こりましたので当初予算に計上しますという話ではなく、臨時的にも即タイムリーに組む予算かなと思います。来年から学習指導要録も変わるなど、いろいろなことを今お聞きして、緊急、可及的速やかに遂行すべき項目ではないかと思います。局長が財政当局に12月補正で計上できるように交渉し、どうしても予算編成の枠の中で不可能に近いですとの話になったら、しょうがないですが、とにかく動いてみてください。私は、それが必要だと思います。

○渡邉博隆教育長　市長。

○武智市長　はい、教育長。

○渡邉博隆教育長　大変前向きな御意見いただき、本当に感銘しております。

当初予算において、教育委員会予算の中で１億ぐらい減額しなければなりません。それから、昨年は今現在整備している空調関係で６億4,000万ぐらい支出しています。その上、校務支援システムを導入したいと、言いたい放題金を出せ、金を出せというような思いが強いというようなことで、二の足を踏んでいるのが実情です。実際に学校現場が、新年度から稼働できる、そういう体制をつくるのであれば、今言われた形で12月補正予算に１年間の915万円を上げて、その後逐次予算化することで、是非、12月議会に上げていただければ大変私自身はありがたいと思います。

○水口良江委員　はい。

○武智市長　水口委員。

○水口良江委員　学校訪問も２年前からいろいろ何回も繰り返して、今年度はどうしてもこれを取り入れてほしいと現場の先生方の切実な思いでした。去年は空調を計上し、今年は子供の命にかかわることが先になりまして、先生方も混乱されましたけれど、矢野委員さんがさっきもおっしゃったように指導要録が変わるということに関連して、どうしてもこれをしてほしいと、訴えられました。

このことに関して、市長も前向きに検討するよう言われていますので、是非12月議会に上程いただけるとありがたいと思います。

○武智市長　去年も12月、11月ごろにでも私が聞いていたら、同じことを言ったと思います。今の教育長の逆のことを言いますと、余談ですけれど、白血病で骨髄移植をすると、今まで打っていたはしかのワクチンとか全部消えてしまうので、新たに予防接種を打たないとワクチンの抗体ができないそうですが、伊予市は２回目のワクチンの補助はしていませんでした。しかし、砥部と松前は補助していました。だから、砥部と松前が補助しているのに、伊予市は金がないと言って補助しないのはおかしいだろう。今のところ１人ですが、２回目の補助ぐらいはマイノリティーでもそれは風邪と違うからすべきであると考え、特に水泳の池江璃花子選手のこともあったりして、即座に健康増進課課長が動いて、計上しました。つい最近の話です。だから、それと同じことですが、今度は逆パターンで砥部と松前がしていなかっても、伊予市の状態はこういう状態なんだということを鑑みて、やはりスピーディー、タイムリーに動けると言ってもらえるような対応をしてもらいたいと私は思っています。

○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　はい、佐々木局長。

○佐々木事務局長　今後、財政部局と協議はしたいと思います。

また、先ほど矢野委員さんから御質問があった交付税の関係ですが、財政部局に今確認し

ましたが、普通交付税での算定は見込めないとのことでした。

○矢野ひとみ委員　はい、わかりました。

○鷹尾秀隆委員　はい。

○武智市長　はい、鷹尾委員。

○鷹尾秀隆委員　済みません、ちょっとお聞きしたいのですけど、このシステムは外部には絶対つながらない。漏えいの心配はありませんか。

○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　はい、佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　このシステムには、センターサーバーをこの庁舎内に置いて、各学校間のみつなぐことになりますので、外部への漏えいは考えられません。

○鷹尾秀隆委員　わかりました。

○高橋久美子委員　済みません。

○武智市長　高橋教育委員。

○高橋久美子委員　システムの内容について、もう少し詳しく教えてください。最初の統合型校務支援システムの導入がない理由の中に、広く校務と呼ばれる業務全般を実施するために必要な機能、実働したシステムということが書かれております。具体的に言うと、児童・生徒の成績管理などが私たちには特にわかりやすいかと思います。そのもう一つ前の項目で教員の職務の中に地域住民等からの要望、苦情を受け付けるあるいは地域行事などに参加するなどという私たちも、そこまでというような内容が確かにあります。でも、このシステムを導入したときに成績をそこに打ち込んでおくとか、出欠状況を打ち込んでおくという数字として、わかりやすいものがありますが、それにプラス例えばどの先生がどの行事に参加しました。しませんでした。とか、あるいは苦情があったときにこういう方からこういう苦情がありまして、こういう対処をしました。みたいなことまでも全部そこに入れていくということになるのですか。

○佐々木事務局長　はい。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　このシステムの中には今高橋委員さんがおっしゃられたような項目は、多分入ってこないと思います。もし出るとしましたら、教務主任とか、教頭先生、校長先生が別のシステム、例えばワードとかエクセルとかで管理するかと思います。

○武智市長　はい、渡邉教育長。

○渡邉博隆教育長　今言われた内容的なものは、ミライムには入っていないのですか。

○武智市長　福原主幹。

○福原指導主幹　実際問題、それぞれの学校で校務支援システムの中に残すかどうかということに関しては、どちらかというとこれはあくまでも生徒指導であったり、教頭であったりさっき局長が言ったとおり、皆で残すのではなく、個人で別のものに残すのが一般的ではあろうか

と思います。例えば、土日の地域行事に誰が参加して、誰が参加しなかったか記録することはないと思いますし、地域住民との対応については別のもので保管する形になるかと思います。まだ実際にこの校務支援システム見ていないので、それについてもし使えるものがあったら、例えば教頭だけ見ることができるフォルダがあったら、そこに入れるとか考えられると思いますので、今のところは何とも言えないところではあります。

○高橋久美子委員　よろしいですか。

○武智市長　高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　私ももうこれだけ実際に20市町のうちの14市町導入している、世の中全体がそちらに動いている中で伊予市もやはりこれは導入すべき、それで改善されることもたくさんあると思っておりますので、賛成です。導入するなら、なるべく早いほうがいいことにも賛成ですので、これから言うことは反対意見というわけではないんですが、今福原先生が言われたような、そういう何かに参加した、しなかったとか、こういう対応をしたという内容は別のものに入力するというお話ですけど、それは現在もそういう形で入力されているのかどうか。それも手書きか何かに入力されていて割と簡略化され、時短に結びつくような形が導入されているのかどうなのか教えて下さい。

　それと、成績とか、生徒の出欠管理とかを管理するのなら、今現在と比べてどれぐらいに先生の校務が減って、時間が減るのかあわせて伺いたいと思います。具体的に、こちらにもコミュニケーションの向上、業務の質の向上とありますが、手書きからパソコン入力で、時間が短くなるところまではわかりますが、コミュニケーションがそこから向上するものなのかどうかというところも非常に私は疑問に思うので、もうちょっと具体的にこれを導入すると今までできなかったことができるようになるということがあれば教えていただきたいと思います。

○武智市長　はい、福原主幹。

○福原指導主幹　パソコンの中に入力して必要に応じてこちらに情報が上がってくることもありますので、当然手書きということはありません。それから、実際にどれぐらい時間が短くなるかということは、私もまださわってないので、何とも言えませんが、とにかく先生方が忙しいのは４月当初、学年末、学期末の通信簿の時期です。私も以前、郡中小におりましたが、その当時は、要録も手書きでしたので、出席簿に関しては、保健室での管理は当然データですが、クラス単位の出席簿は手書きで書いていました。

　それから、それぞれで管理していたもの、具体的には保健室や職員室でばらばらで管理していた情報を共有することができる。さっきの出席管理にしても、今まではばらばらで管理した情報を保健室で管理したものを共有できたら、かなり違ってくると思います。時間に関しては入った当初はしばらく慣れるまではあれだと思いますが、伊予市が私たち教職員のために入れてくれるというだけでも先生方のモチベーションあたりも変わってくるだろうし、そのあたりは今ちょうど勤務時間を管理しておりますので、ある程度は結果としては出てくると思いま

す。業務量でもそうですし、気持ちの上でも大きく変わってくるだろうとは想像はできます。
○武智市長　よろしいですか、よろしいですか。
○高橋久美子委員　そうですね。
○武智市長　はい、高橋久美子教育委員。
○高橋久美子委員　よくわかりました。非常に丁寧に説明していただいてありがとうございます。１点だけ、実際にここにいる皆さんも含めて私もそうですけれども、このミライムであったりサイボウズであったり、いろいろ既に導入しているグループウエア機能がいろいろな業者さんのいろいろなものがあるようですので、それぞれもちろん機能が違うのでしょうが、それを使う側がどうやって使っていくか、どこまで入力するかを決めることが大切かと思います。実は私も職場でこういう大がかりなシステムではないですが、入力することによって職員全員が情報を共有するものを使っています。そのときに、それが導入されると確かに手書きよりも早いですし、会議をしなくてもそれを見たらみんなが同時に情報を共有できるため非常に便利な点がある反面、今度はそれを入力する、生徒管理をするために事細かに生徒さんの様子をそれに入れるとか、それを知っていたのになぜ入れていなかったのかなどの問題がまた起きてきたりします。だから、こういうシステムを導入することはすごく賛成ですし、非常にメリットがあるのもよくわかりますが、導入する場合にそれをどう管理していくかも同時にあわせて考えていただきたいと思っております。
○武智市長　よろしいですか。
○高橋久美子委員　はい。
○武智市長　導入にあたっては、高橋委員が言われたように最初から満点は、なかなか難しいと思いますので、導入してからより良いものに構築すること。情報について、絶対漏えいのないようセキュリティに万全を期することをお願いします。
　それでは、最初の協議事項、統合型校務支援システムの導入については、予算化をして細かいことは言いませんけれども、議会にかけるということで御異議ございませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○武智市長　はい、ありがとうございます。それでは、次に参ります。
　協議事項(2)中学生英検３級受験（補助金）について事務局より説明を申し上げます。
　はい、佐々木事務局長。
○佐々木事務局長　では、協議事項の２番目、中学生英検３級受験（補助金）について御説明を申し上げます。
　この案件は、先般中予教育事務所、愛媛県から要望があったことに基づき今回、提案しました。
　資料の４ページをお願いします。
　令和元年度の全国学力・学習状況調査、これは愛媛県が調査結果の概要を発表しています。

この状況調査において、今年度、中学校において初めて実施された英語科の試験につきましては全国平均を若干下回っています。真ん中の表のとおり、中学校の英語で愛媛県は令和元年度で55点、全国平均は56点という結果になっています。

５ページ、横長になりますけど、これを受けまして愛媛県では対応すべき課題、それから確かな学力、対策と学力向上の取組について検討しました。その中でも、生徒の英語力の向上については、現在中３生の全国学力・学習状況調査では愛媛県は全国21位。中３生の英検３級相当率では39.2％と全国が42.6％ですので大幅に下回っている結果です。

国の第３期教育振興基本計画の話では、令和４年度までに中学校卒業段階で、英検３級の取得率を50％以上という目標を掲げているのをうけて、県は来年度以降、中学校で英検３級取得向上に向け、検定料を市町が補助をした場合に民間の英会話講師を県が派遣し、英検取得機会の確保と英語力の向上を目指しています。それを受けまして、資料の８ページの真ん中にある全国学力調査（中学校の英語）と英検等との関係の中で、英検等の資格取得の上位県10位までは、全国学力調査において全て愛媛県より上位という結果が出ています。

資料の９ページに、それを受けた結果を掲載しています。

資料の６ページに戻ってください。対策として、県教育委員会が、市町教委に検定料の補助をお願いするとともに、検定料を補助する市町教委が所管する学校の希望生徒を対象に、民間英会話教室の講師による講座を開設し、生徒の英語力の向上を図ります。受講対象者は英検３級受験希望者、実施時期は８月から10月までの土日休日の５日間の開催予定、実施場所は県内５会場を予定ということで、実際の会場は、まだ正式決定していません。

資料の８ページに飛んでください。中段あたりで英検３級受験料として、準会場では3,900円、本会場では4,900円が必要です。準会場は、10人以上の受験者数がいたら、そこの会場、例えば中学校で英検３級を受験できる。本会場は、多分愛媛大学とか、松山大学とかの会場での受験です。こちらの3,900円、もしくは4,900円に対して市町が受験者に対して補助を行った場合、先ほど申した対策を県がとってくれて、英検３級の受験機会を増やし、取得率向上につなげたいと聞き及んでいます。

資料の10ページ、県内20市町の平成30年度における受験経験、英検３級相当、英検３級相当見込の数字を上げています。伊予市は、まず受験経験者数が130人、受験率が39.8％。以下、英検３級相当の生徒数が90人、27.5％。英検３級相当見込の生徒数が53人、16.2％となっています。この英検３級相当見込とは、指導している教員が、英検３級相当の英語力を有すると認定した生徒ですので、実際英検３級を受験し、合格した生徒ではないことを申し上げます。

最後に11ページです。平成30年度及び令和元年度における本市の4学校の３級以上の受験者数及びその内３級以上の合格者数を上げています。令和元年度現在の３級以上の取得者数は、港南中学校で52人、伊予中で24人、中山中で４人、双海中で７人、合計87人です。中３生の生徒数に対して、受験率が伊予市全体で28.1％ですので、この受験率を向上させ、また３級の取

得者を増やすために県が提案したもので、本市も、この英検３級受験料を個人に対して補助を行うかどうか、またその補助率について御検討をいただきたいと思います。

○武智市長　中学生英検３級受験（補助金）についての説明が終わりました。

　御意見、御質疑ございませんでしょうか。

○鷹尾秀隆委員　はい。

○武智市長　鷹尾教育委員さん。

○鷹尾秀隆委員　市が補助をした場合、県が５日間対策講座を開設するとのこと。これは当然この辺だったら松山かと思うのですが、５日間松山へ行くことになりますと、みんながばらばらで、電車賃を払うと思います。ということは、受験料よりも電車賃の方が高くなるのではないでしょうか。

○武智市長　はい、佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　中予では、松山で開催されると思われます。実際の具体的な場所までは決まっていませんが、おおむね松山市ではなかろうかと思いますので、松山市への交通手段等については、個人個人での対応と思いますので、交通費等につきましても個人負担をお願いしたいと思います。今おっしゃられたように、確かに交通費等５日間分でしたら受験料よりも高くなことも考えられますが、交通費等までの補助は現在のところは考えておりません。

○武智市長　鷹尾委員。

○鷹尾秀隆委員　県の受験対策講座に変わるようなものを例えば地元で何かボランティアの人に頼んで講座を開講することは難しいですか。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　まず、この県の対策講座は、先ほども理由を申し上げましたが、民間の英会話講師という専門的な先生が教えてくれます。ボランティアの方で英検３級の対策講座をお願いしても、現状を踏まえた、的を射た対策を指導できるか不確定で心配かと思いますので、専門的な講師に講義をしていただくことが、良い結果に結びつくかと考えます。

○武智市長　渡邉教育長。

○渡邉博隆教育長　今の佐々木局長につけ足しですけど、いわゆる義務教育課が主催ということは、県下の意欲を向上させるために何か手だてがないかということで次年度、英検３級対策講座を新しく設けました。したがって、義務教育課が声を上げたというのは、その英検３級取得のためにどういう手だて、どういう子供たちをいわゆるカリキュラム的なものを十分に説明されて、この民間英会話教室の講師による講座で対応すると思われます。言うならば、ボランティアの方も資質、能力はあるかもしれないですが、その５日間で最大限子供たちの能力を発揮できるような体制、背景、支援システム的なものが十分とれているかと理解しています。ですから、でき得れば、希望者、能力がある子供が受験して、さらに上を目指す、そのような機会になればいいと思っています。

○高橋久美子委員　はい。

○武智市長　高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　県教育委員会が講座を開設とありますが、講座料は県教育委員会が持つという意味ですか。講座料は希望者から徴収するのですか。どちらですか。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　先日、県の教育委員会との協議の中では、講座料は県が賄うと認識しています。

この対策講座の受講資格については、市町が受験する中学生に受験料の補助を行うことがまず第一の資格になります。その上で、県が講座開設費用を負担していただけると思います。

○武智市長　はい、高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　そうしますと、流れとしては、子供が英検３級受けたいことを学校か市かに申請して、補助金をいただいて、英検を申し込みます。その補助金を得て申し込んだ人に対して、あなたは県が主催する対策講座５日間受けたかったら受けていいよという案内書か何かをいただいて、それを持って参加するという流れでよろしいですか。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　県からの詳細な説明がありませんので、イメージ的には今、高橋委員さんがおっしゃられたような流れになるかと認識しています。

また、補足説明ですが、先般、中予教育事務所の所長さんが伊予市においでになり、この対策講座を来年度から実施する旨の説明を受けました。伊予市として、有意義な事業かと判断し、今回、協議事項に加えた次第で、周辺市町の検討状況を報告します。

松山市は、９月議会で質問がありましたが、実施しない旨を回答したそうです。東温市につきましては、ただいま検討中ではありますが、３級だけでは不公平ではということで、定額補助も検討している所ですが、現時点では実施していない。大洲市、今治市は実施していないし、今後も実施予定はない。西予市は、平成29年度から、この英検３級も含め、漢字あるいは算数等の検定も含めて学校会場で受けた生徒のみ受験料の２分の１補助をしている。砥部町、松前町は、実施していないし、今後も実施予定はない。

以上、周辺市町の検討状況でした。

○武智市長　高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　先ほどのお話で講座がこの辺だと松山になる可能性が高いと言われていましたが、令和元年度の受験者人数が104人。英検の試験は年間３回ありますので、単純に30人くらいは毎回受けていると考えられます。そうすると、30人が松山に行かなくても、逆に伊予市に派遣していただくことは、できないのでしょうか。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　資料の６ページのとおり、実施場所は県内５会場の予定との県からの説明

ではなかったかと思います。５会場の場所は、県が検証して決定するものと思います。中予におきましては、松山市がメイン会場になるかと推測しています。しかし、伊予市での開講を確約することはできませんが、もし、この補助を実施する場合、対策講座を本市で開講してもらいたい旨を、県に打診することは可能だとは思います。

○武智市長　高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　補助することについて、補助をもらう側からしたらそれはありがたいですし、これから受けようと思っている人にとっては、大きな助けになるだろうと思います。しかし、もう一歩進んで考えると、補助が出るからといって受験者が増えるのでしょうか。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　確かに、補助がつくから受験して、受験者が増えたから合格者が増えますという確約はありません。しかし、県としては、英語力向上や英検取得のための機会確保のためにこの事業を提案しているので、大きな意味で、愛媛県全体の英語力向上に一定の効果があると認識しています。

○武智市長　矢野教育長職務代理者。

○矢野ひとみ委員　中学校で英検のほかに検定を受けるもの。子供たちがお金を出して検定を受けるものは、漢検ぐらいですか。

○武智市長　高石指導主事、お答えできますか。

○高石指導主事　申しわけありません。そこらの情報は把握していません。

○矢野ひとみ委員　というのも、英語の能力を上げなければならないというのは、非常によく分かるのですが、さて、子供たちや保護者の立場に立ってみたら、うちの子漢検受けたのに、英検は出るというのに、漢検は出ないよ。というのは、いかがなものでしょうか。

財政的に厳しいのも、非常によく分かっていますので、難しいことも理解できるのですが。

○武智市長　鷹尾教育委員。

○鷹尾秀隆委員　資料の11ページ、受験率について港南中、伊予中が高い。特に伊予中が非常に高いです。翻って中山中、双海中が低い。特に双海中が15.4％と非常に低い。

多分、これは、先生の指導というか、受験について声を掛けている先生の問題ではないかと思います。例えば、伊予中が46.7％受けていますが、生徒が自発的に、私は受けたいですという人がたまたまたくさんいた結果ではないと思います。そういうものから解決しない限り、例えば受験料の半額補助2,000円ぐらいしても、受験者は増えないと私は思います。

○高石指導主事　はい。

○武智市長　高石指導主事。

○高石指導主事　11ページの表ですが、１点だけ説明させていただきますと、例えば双海中の平成元年度受験者数４人に対して合格者３人ですが、実はちょうど、この人数を聞いたときに、今、申し込んでいる生徒もいますが、それは結果が出てないので含んでおりません。との

ことでした。ほかの学校が、受験者数に含んでいるかどうかまでは確認できていませんが、双海中の場合、生徒の人数が少ないので、3、4人が受験すると15％が30％ぐらいに上がりますので、単純に比較ができないということだけ、お伝えしたらと思います。

○矢野ひとみ委員　はい。

○武智市長　矢野教育長職務代理者。

○矢野ひとみ委員　私もこの数字が中山中を見ながら納得できない。今年受けるのは何人ですかと聞いたら７人受ける予定ですと校長先生がおっしゃったと思います。元年度の受験者が４人になっていますので、あとの３人は、どこにいったのかなという感じです。

○武智市長　はい、高石指導主事。

○高石学校教育課指導主事　30年度は１年間の受験者の数字ですが、令和元年度の数字は、どの時点での受験者数か、学校によって違いますので、申し訳ありませんが、一概に比較することができないかと思います。

○矢野ひとみ委員　校長先生から７人受けますと聞いていたもので。ちょっとわからなくなりました。はい、すみません。

○武智市長　高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　先ほど鷹尾委員さんが言われたことについて、私もそのように思います。受験料を補助することと、生徒の英語力が向上することは一緒ではないと思います。そうしますと、財政、本当にお金のことばかり言うのはどうかとは思いますが、現実問題、財政を考えたときに、優先順位があろうかと思います。その中で県が推奨していることは、簡単に無視できるものではないかもしれませんが、市として考えた場合、どこまで補助するか考える必要があると思います。

　また、受験率を上げたいのであれば、まず英検３級を合格できる学力を持たせることが先決だと思います。やみくもにみんな受験しても、学力のない子は合格しない、そんなに甘いものではないと思います。それと、先ほどの鷹尾委員さんが言われたように、先生が、受験について声を掛けているかどうかだと思います。

　なお、会場についてですが、伊予市の４つの中学校で準会場はありますか。

○武智市長　佐々木事務局長。

○佐々木事務局長　準会場として使用しているのは、港南中学校と聞いています。

○高橋久美子委員　伊予中は準会場でないということは、みずからどこかの会場に、松山まで出向いて受検している生徒がこれだけいるということですね。港南中学校は大きいから、準会場になりやすいと思いますが、そうでなくても10人集まれば準会場にできることを考えると、伊予市内の中学校でもっと準会場を増やせるような気がします。自分の中学校が準会場になるかどうかだけでも随分、受験しようと思う意識としてハードルが低くなるかと思います。

　また、学校全体で団体登録すると、受験料が若干安くなりますので、そういうことも考え

ると、補助金云々の前に、もっとできることがたくさんあるような気が私はします。

○武智市長　この３級以上の受験者数129名の中には、２級も１級も入っていますので３級を何人受検したかは、まだ把握できておりません。だけど、これからの伊予市における主要施策等々を考えたときに、中学生があと20年後、例えば30歳を過ぎたときに伊予市を本当に牽引してくれるマンパワーになるということ。英語３級の門戸を開いて受けてみようと。無料だから受けようという人は、まず少ないと思います。しかし、伊予市においては、この部分においては補助をするという考え方もあろうかと思います。県の講座を受けないと、３級の試験が受けれないわけでもないわけであって、それはあくまでも保護者の考え方とは思います。だからそういう未来ビジョンを考えたときに、佐々木局長と事前協議しておりましたので、私の考え方を佐々木局長言ってくれますか。佐々木局長。

○佐々木事務局長　武智市長とこの件につきまして、先日、お話しさせていただきました。今市長のお言葉がありましたとおり、受験の門戸を開くことによって、３級受験の門戸を開くことが一番大切ではないかというのが市長さんのお考えです。ですので、市長の意向の全額補助のお考えに基づき、予算計上し、３級の受験者を増やして、伊予市の中学生の英語力向上を図りたいと伺っております。

○武智市長　佐々木局長と先日話をしまして、私の考えは、佐々木局長のとおりです。それを最初に私が言ってしまうと、逆に皆さんの意見を抑止するようなことになってしまうと思い、ちょっと黙っていました。

　時間もあれですので、採決をしたいと思いますけど、この英検受験者の補助金に対して議会に提案することに賛成の方は挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○武智市長　全員ということで、今後の予算計上を検討させていただきます。

　渡邉教育長。

○渡邉博隆教育長　８ページで伊予市の子供たちのいわゆる英語の課題が出ています。その右上、「まとまりのある英語から、要点をとらえる力の育成」をしていかなくてはなりませんが、先日ＡＬＴが２人新しく来ました。言うならばＡＬＴが来たときに子供たちとの会話自体は日本語を優先して使ってくれています。英語の時間は英語を使っているようですが、ふだんのときの英会話をこういうふうな形であらすじがわかるように今後、子供たちと話すときは英語を中心に会話を進めてもらいたいとＡＬＴにお願いしました。

○武智市長　それでは、次の議題に行きます。

　令和２年度伊予市文化交流センターアクションプランの推進について、山岡社会教育課長、説明をお願いします。

○山岡社会教育課長　それでは、資料12ページをお願いします。

　令和２年度伊予市文化交流センターアクションプランの推進について御説明します。

御案内のとおり、伊予市文化交流センター、ＩＹＯ夢みらい館が８月１日オープンしました。２カ月たちまして、９月末現在入館者は約１万8,000人ということで、旧図書館の来館者数と比較しますと1.6倍を超えています。市民の皆さんの期待が非常に高まっているということがうかがえます。懸念されておりました駐車場も着工しておりまして、今年度中には専用駐車場、約130台ぐらいを想定しておりますけれども、完成予定となっています。いよいよ令和２年度より本格稼働ということで、グランドオープンとなります。ですので、来年度２年度の文化交流センターの事業、アクションプランについて御意見を頂戴して議論をしていただいたらと思います。

資料の上段から参りますけれども、「１　基本理念」「２　複合施設としてのあり方」、こちらのほうは昨年度も説明をしている内容ですので、詳細は省略させていただきますけれども、これまで多くの話し合いにより建設基本計画が策定され、そのコンセプトに沿って建設をされた施設となっております。あわせて市民ワークショップや管理運営検討委員会で協議を重ねて管理運営基本計画を定め、管理運営実施計画が定められておりまして、いよいよ来年は本格稼働となっておるわけです。

さて、主なものを説明しますが、資料の13ページをお願いします。

「３　各施設の方針（令和２年度）」をご覧ください。

「(1)図書館」について、黒い丸が重点事項でございまして、主なものを説明します。

「郷土資料収集及びデジタルアーカイブ化」ですが、これは10年間ふるさとの行事とか農村風景など記録に残そうと撮影していた貴重な地域映像がテープ、これが122本ありまして、市民の方から寄贈をいただいています。現在ではほとんど利用されてないＶＨＳビデオテープでの寄贈であることで、これをデジタルデータに変換し、アーカイブ化に取り組み、伊予市の貴重な資料として保存に努めたいと考えています。そのほか「文化財を利活用した取り組み」として、出前講座や講演会などを実施し、周知、啓発に努め、「市民団体との連携」では各種団体、伊予市観光ボランティアガイド、読書ボランティアの方々の協力を得て、お話会など子供向けイベントや地域の名人を講師に招き、各種講座を実施するなど地域の歴史、自然、文化などの魅力を発信したいと考えています。

次に、「(2)　地域交流館」についてですが、「①施設の特性を活かし、多様な市民活動の向上・拡大を図る」ため、「他団体間とのマッチング」「複合施設の機能を活かした取り組み」を推進する計画です。これは市内に文化やスポーツなど、多くの団体が存在しており、文化交流センターの利用者側の連携ニーズの部分など、要望などを調査、分析して、他団体とのマッチングを促進し、文化交流センターの活性化につなげたいと考えています。そのほか、市内で活動しますクリエーターや作家たちとその作品などの紹介の場を提供しながら今後の施設利用促進の活性化を図るとともに隠れたクリエーターの発掘に努めたいと思っています。

「②市民や民間の力を利用した事業をコーディネートし学習機会を増やす」では、市民の学

習ニーズに応えるため、地域の匠や企業等と連携をし、学習機会を増やしていきたいと考えておりまして、具体的には、地域の名人・達人を発掘するとともに、市民大学といった講座を開催し、地域の魅力発見や交流の輪を広げる取り組みを行うとしています。

「③全市的な展開とともに、周辺地域のコミュニティー活性化に寄与する」ということで「各公民館と連携した取り組み」「中心市街地の活性化に向けた取り組み」を行う予定です。

続いて、「④まちのインフォメーション・センターとしての機能」の取り組みとして、「市内小中学校、高等学校等との連携」「学習機会の創造」については、今後、本施設を活用した取り組みについて、学校の要望などを調査しながら連携した事業を模索して取り組みたいと考えています。

次に、「(3)文化ホール」ですが、「①市民が参加・体験・交流できる事業に力を入れる」「②良質な鑑賞事業を提供し、文化への関心、文化活動への意欲を高める」としまして、「一流の指導者によるワークショップ等の開催」や「プロと市民がともにつくる舞台発表」、そして「文化交流事業の開催」「良質な鑑賞事業の提供」「文化芸術による子どもの育成事業の実施」を考えています。具体的には、芸能人などの著名人を呼ぶのではなくて、市民とともに事業企画実施することを基本にプロの演劇団体の指導による市民ミュージカルを運営し、子どもたちから大人まで幅広い世代や地域の市民に呼びかけて参加してもらって伊予市のオリジナルの演劇を創作、上映したいと考えております。良質な鑑賞事業につきましては、このたび購入をいたしましたスタインウェイピアノの選定者でありますプロピアニストによる演奏会を開催いたしまして、このピアノの特徴やすばらしさ、ピアノを選定する際のエピソードなどを広く紹介するとともに、プロの演奏を提供するものです。

「③施設内だけではなくて、市内広域に事業を展開する」では、ＰＲ事業・アウトリーチ事業につきましては引き続き継続実施をしてまいりたいと考えております。

「④他機能と常に連携し、複合施設の特性を活かした事業を行う」では、常に利用者のニーズに寄り添い、「有効な貸館事業の展開」となるよう取り組みたいと考えています。

最後に、「⑤伊予市のいままで・これからの文化資源を保存・継承する」として、特に「伝統芸能の発表及び記録」については、伊予市総合文化祭とか和太鼓の集い等実施して、伝統文化活動を記録し、紹介したいと考えています。

以上、主だったところを説明させていただきました。いよいよ本施設がグランドオープンしますが、令和２年度の文化交流センターの予算につきましては、これら推進事業費として1,190万を計画しております。よろしく御審議をお願いします。

以上で説明を終わります。

○武智市長　ただいまの説明に対しまして御意見なり御提言なりございましたらよろしくお願いいたします。水口良江教育委員。

○水口良江委員　文化ホールの③です。施設内だけでなく、市内広域に事業を展開する。アウ

トリーチ事業の実施とありますが、例えば具体的に今の段階でどのようなことを実施するか教えてください。

○武智市長　北岡社会教育課課長補佐。

○北岡社会教育課課長補佐　今年度であれば港南中学校で地域の方を呼んで話をするというカリキュラムがあって、そこにお呼びいただき、田村係長が、ＩＹＯ夢みらい館のことを話しました。昨年、一昨年であれば、地域で活躍する団体、扶桑太鼓さんやわらべ合唱団さんとかの団体と組んで地域のこういった活動があること、あとプラス新しい施設ができることのＰＲを各小・中学校に周知啓発をしました。現在は、施設が完成したので、こちらが出向くより見学会で小・中学校や学童児童クラブが来て説明をすることが多くなりました。このＩＹＯ夢みらい館のＰＲや鑑賞事業などについて、お話をしていますが、この施設だけではなく、足を延ばして双海や中山で公演が可能なら、あわせて実施したいと考えています。予算の関係があるので、難しいかもしれませんが、できることからやっていこうと思っています。

○武智市長　平成23年、24年当時ですが、濱田屋北側にある１市２町共有物組合の土地に寿楽座なるものを作るという案がありました。また、ウェルピアに図書館を作るという案もありました。しかし、築港白水線も踏切さえ広がれば２車線になること、郵便局が移転すること等、いろいろなことを加味すると図書館・文化ホールは、あそこの場所が一番いいだろうとの結論に至りました。

せっかくできた、できつつある文化ホールですので、教育委員さん、皆さん方におかれましても今まで培われた経験やお知恵を拝借して、今後も御教示していただきたいと思います。

それでは、説明は以上で終わりますので、令和２年度伊予市文化交流センターアクションプランについては、この方向性で推進したいと思います。

○武智市長　最後に「その他」ということで、どなたからでも教育委員さん御発言をお願いします。水口良江教育委員。

○水口良江委員　「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されてから今年の１２月にちょうど３年になります。伊予市においても「人権を尊重する社会づくり条例」という立派な条例を制定し、他の市町に比べて伊予市の取り組みはトップクラスと私は思います。ただ、この法律は、その自治体に応じた取り組みをしなさいと唱えられていると思いますので、３年目を迎えるに当たり、市長は、伊予市としての取り組みについて、どのような方向性をお持ちなのか教えてください。

○武智市長　伊予市においては、部落差別に対することをしっかり書き込んだ条例に変えようとの方向性で進んでいます。

○山岡社会教育課長　市の条例改正を現在検討中です。改正案ができましたら、議会に諮らせていただくよう、現在意見を集約している途中です。

○水口良江委員　議会の上程は、いつごろを予定しているのですか。

○武智市長　来年の３月議会を目指して検討をしています。

○武智市長　ほかにございませんか。高橋久美子教育委員。

○高橋久美子委員　特別支援学級について、お聞きしたいと思います。

今の伊予市も含め恐らく愛媛県ほとんどの学校で特別支援学級に所属するお子さんは、まず朝登校したら特別支援学級の教室に入ってホームルーム活動をして、必要に応じて各クラスの授業に参加する流れかと思います。

しかし、今、全国的な流れは逆になっています。まず、登校したら一般の教室に入って、できる授業とできない授業の必要に応じて特別支援学級に行く。また、下校時は、自分のホームルームに帰って学級活動をしてさよならと言って帰るという流れが一般的です。県外の方から、愛媛は、まだその流れなのですね。と言われました。

登校して特別支援学級ではなく一般の教室に行くことによって、所属意識であったり、ほかのお子さんやお母さんとのつながりもより深くなったりするのではないかと、この話を聞いて初めて、こちらの方がいいと私は思いました。私の周りの何人かにも意見を聞いたら、多くの人が賛同しました。

どちらもいい面も悪い面もあると思いますが、もし例えば伊予市だけでも流れとして変えることはできないか。あるいは今の現状のほうがよりやっぱり運営上良いなら、その理由をお伺いしたいと思います。

○福原指導主幹　その子その子の状態によって違ってくると思います。

朝の会とか、最後のさよならをする会について特別支援学級でする児童もいます。それから、特別支援学級の横がその１年生の教室であったりする学校は、できるだけ交流を進めているところもありますが、それが難しいお子さんもいらっしゃいます。その子その子に応じたカリキュラムや１日の過ごし方をしているのが実態ではあると思います。

○高橋久美子委員　福原先生が言われたように一部、交流を進めている学校もあると思いますが、ただそのときに私が聞いたのは愛媛はそういう意味でも全国的な状態からすると遅れぎみというか、違うと聞きましたので、このような考え方もあることを皆さん御理解されたうえで、今後のきっかけになればと思った次第です。

○渡邉博隆教育長　高橋委員さんの遅れているとの発言ですが、朝、一般の教室へ行くのが進んでいて、特別支援学級に行くのが遅れているという考え方は違うのではないかと思います。

と申しますのも、特別支援学級は何のために設置したのかという所がまず原点にあります。特別支援学級があるのは、その子供の実態に応じてどうしても設置する必要がある、１人でも設置して、その子供が子供の実態に応じて一番子供の能力がある、適性が発揮できる場所、つまり特別支援学級の中で発達を促している。また、子供の状態に応じて交流学級をして異集団での遊びあるいは仲間づくりをする機会も設ける。

特別支援学級の設置、趣旨は全国的にも、このようなことと私は思います。したがって、

遅れておるとか、進んでおるとかという観点でそこを判断するのはいかがなものかと私は思います。

○高橋久美子委員　遅れている、進んでいるという言い方がもし適当でなかったら申し訳ありません。そういう意味ではなかったつもりです。

私が言いたかったのは、流れとして特別支援学級から来る子供達ではなく、この教室にいる子供達が授業によって特別支援学級で勉強するような、だから朝来たときにまず一番最初に登校してきて所属する場所が、その子がいる教室であったほうが所属意識が違ってくるのではないかと感じたところです。

○矢野ひとみ委員　愛媛の特別支援学級について、私の認識からしたら非常に全国的にも立派な先生方が育ってすばらしい教育をしていると思います。他県に知り合いがいるわけですが、私は高橋委員さんが言われたようなことは聞いたことはありません。

それから、指導主事が言いましたが、交流についても交流学習というので、ほとんどの特別支援学級を有している学校については、交流しているかと思います。かなり細かいところまで担任の先生がそれぞれ集まって支援していると認識しています。

伊予市でも、もちろん朝来たら「おはようございます」と一般の教室に行く学級もあるかもわかりません。しかし、子供はその子その子に応じて、能力の程度がありますので、特別支援の仕方が違ってくるのも御存じかと思います。その能力に応じて個別のカリキュラムを一人一人に分けて作成し、ずっと年間通して、あるいは年間かけてじゃなくて幼稚園からずっと来ているわけで、本当に臨機応変な適切な指導を先生方はしていると思っています。

○武智市長　教育委員さんの研修について、パイオニア的な先進地視察について、皆さんの日程調整をするのは難しく、場所によっては１泊２日が必要かもしれません。皆さんスキルアップは充分にされていると思いますが、百聞は一見にしかずでもありますので、御検討いただけたらと思います。

○武智市長　ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐々木事務局長　それでは、最後に武智市長から挨拶を申し上げます。

○武智市長　今日皆様方からいただいた御意見、今後の姿勢または教育行政に本当に参考にさせていきたいと思っています。今後とも伊予市の総合教育会議、ますます深く、進化するように皆さん方の御意見を聞きながら伊予市の子供たちのために、それがひいては75歳以上の方々につながっていく部分もあると思いますので、どうか御指導いただきたく思います。

今日は、貴重な御意見を賜りましてありがとうございます。これから、秋本番、幾分朝晩寒くなってまいりますので、健康面には御憂慮されて笑顔の毎日を過ごしていただくことを御祈念申し上げまして、簡単ではございますが、御挨拶にかえさせていただきます。今日はどうも本当にありがとうございました。

○佐々木事務局長　閉会。

午後４時５０分　閉会